

2019年7月24日

国立感染症研究所

■ 事例の概要

現在コンゴ民主共和国（Democratic Republic of the Congo : DRC）で発生しているエボラウイルス病〔感染症法上の名称はエボラ出血熱だが、本文では疾患名としてのエボラウイルス病（EVD）と表記する〕の流行は、2018年7月中旬～下旬にかけて DRC 東部に位置する北キブ州の Mabalako における急性出血熱患者の発生とそれがエボラウイルスによることが確認されることにより確認された。2018年8月1日にキンシャサ国立生物医学研究所（INRB）は、患者から採取された6検体のうち4検体が PCR 検査でエボラウイルス遺伝子陽性を呈し、それらの患者が EVD と診断されたと報告し、同日、DRC 保健省は同国としては第10回目となる EVD 流行を宣言した。2018年8月5日の時点では、北キブ州の Mabalako を含む5つのヘルスゾーンと Mabalako と近接するイトゥリ州 Mandima から計43例（うち死亡例34例）が報告された¹⁾。なお、遡り調査では、2018年5～6月に発生していた死亡例の集積が EVD によるものであった可能性が指摘され、これら死亡例は疑い例（probable case）として扱われている。北キブ州における EVD の発生は、DRC の赤道州で2018年5～7月に発生した第9回目のアウトブレイクとほぼ同じ時期であるが、それぞれの流行の原因となっているエボラウイルスの遺伝子塩基配列の違いにより、2つの EVD 流行には関連性はないとされている¹⁾。

流行発生から約1年が経過する現在に至るまで、北キブ州およびイトゥリ州の地域において EVD 流行が続いており、DRC で発生した EVD 流行としては最大規模になっている。今回の EVD 流行地域は、以前から国連の平和維持活動（PKO）の介入を要する程の紛争地帯で、武力衝突や暴力事件が頻繁に発生しており、外務省の海外安全ホームページにおいてもレベル4（退避勧告）の危険地帯に指定されている²⁾。さらに流行地域は、一部の住民の保健当局や政府への不信感が根強く、EVD 確定患者や疑いのある患者の収容・検査診断、接触者調査、接触者を中心とするハイリスクグループへのワクチン接種などの適切な公衆衛生対応が十分に実施できない状態にある。このことが、感染拡大の背景にある。

■ 疫学的情報と対応

2018年4月～2019年7月（7月16日現在）の、DRC における発症日にもとづく流行曲線を以下に示す（Table1.WHO Disease Outbreak News³⁾より）。

2018年8月上旬には北キブ州の北にあるイトゥリ州の Mandima や北キブ州の Beni、Musienene、Mabalako から患者の発生の報告があり⁴⁾、9月以降には北キブ州の Butembo や Katwa からも患者が発生した。その後 Butembo や Katwa において感染が持続し、近接する町でクラスターが形成されていき、北キブ州、イトゥリ州の広域に感染が拡大した⁵⁾。

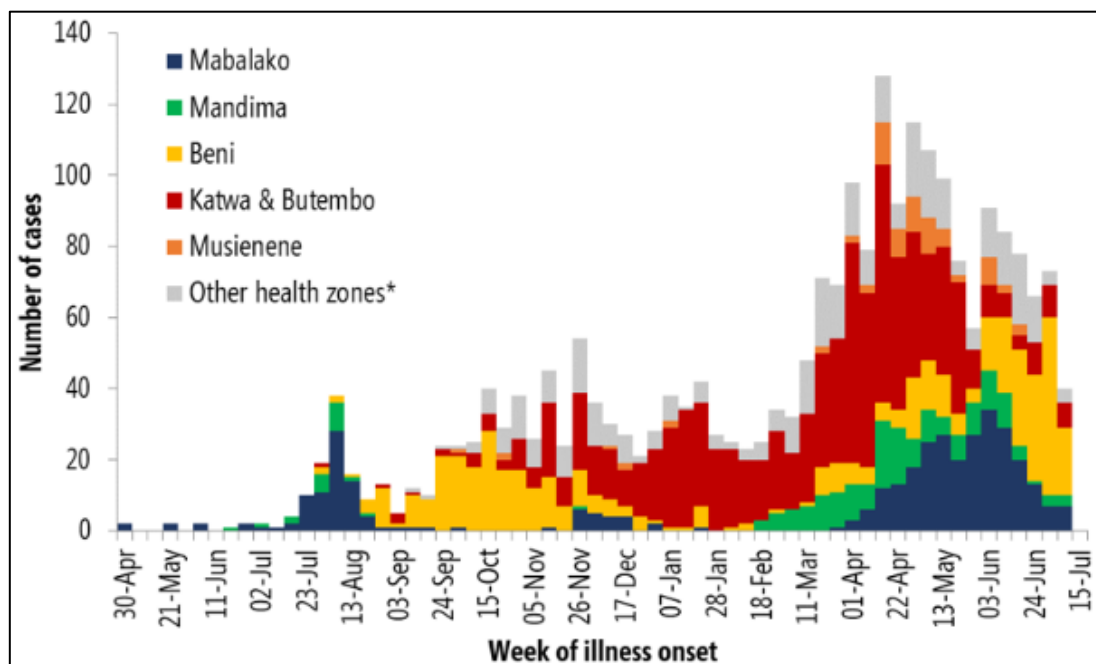
2019年2月下旬には Butembo と Katwa においても患者が報告されたが、これは同時期に発生した、武装グループによりエボラ治療施設（ETC）が放火された事案の後であった⁵⁾。これは、ETC を運営していた同地域の国境なき医師団（MSF）が撤退を余儀なくされたこと、セキュリティ危機事案の発生により EVD 対応の実施計画の変更が余儀なくされたことなどと無関係ではないと指摘されている。2019年7月には北キ

ブ州最大の都市である Goma で初めて 1 名の EVD 患者が確認されたことをうけ⁶⁾、WHO は 2019 年 7 月 17 日今回の EVD 流行に関して 4 回目の国際保健規則緊急委員会を開催し、国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）であることを宣言した⁷⁾。

なお、2019 年 6 月 11 日には DRC とウガンダ共和国（以下、ウガンダ）の国境付近のカセセ地区にて DRC の Beni から 3 名の旅行者が EVD 確定例と報告され、ウガンダ政府は第 6 回目となる EVD 流行を宣言した⁸⁾。これら 3 例は治療のために再び DRC へ移送された。また、ウガンダ国内においては、2019 年 7 月 5 日、ウガンダ保健省は全ての接触者の健康観察を終え、新規患者が出ていないと発表した⁹⁾。しかし、7 月 11 日、DRC で EVD 確定例となった DRC の漁師が、ウガンダのカセセ地区 Mpondwe ですでに発症していたことが判明したため、発生接触者に対する対応を継続中である¹⁰⁾。2019 年 7 月 22 日現在、ウガンダでの EVD 新規例は報告されていない。

【TABLE1】各地域別 週ごとの EVD の報告数(確定例および疑い例)

出典：WHO Disease Outbreak News 18 July 2019



2018 年 4 月以降北キブ州およびイトワリ州における 25 のヘルスゾーンから疑い例を含め、2501 例（死亡 1668 例、致命率 67%）EVD 患者が報告されている。そのうち女性は 1419 例（57%）、18 歳未満の子どもは 718 例（29%）に及んでいる。また医療従事者の EVD 患者数は増え続けており、135 例（5%）に及んでいる（2019 年 7 月 16 日現在¹¹⁾）。DRC 政府は、WHO などの国際機関や NGO とともに、主に以下の点において対策を実施または強化のための活動を行っている。その活動内容はサーベイランス（疑い例の調査や接触者調査を含む）と検査診断・診療体制・感染管理、安全な水と公衆衛生・国境検疫・安全で尊厳のある埋葬・エボラワクチン接種・リスクコミュニケーション、社会動員、地域社会の関与等である。

国連は、2019年5月、国際的支援をさらに効果的なものにするため、EVD対応への支援に関わる国連機関間や国際的NGOの調整を行う国連緊急対応コーディネーター（UNEERC）を任命した。UNEERCの強力な権限のもとで、安全保障上や人道的な国際的支援の調整を実施している¹²⁾。

■ ウイルス学的所見

エボラウイルスはモノネガウイルス目フィロウイルス科に分類され、エボラウイルス属には、6種の亜属（ザイール、ブンディブジョ、スーダン、タイフォレスト、レストン、ボンバリ）の存在が知られている。DRCで現在発生しているEVD流行の原因ウイルスはザイールエボラウイルスであり、2014-2016年の西アフリカ諸国で発生したEVD流行の原因ウイルス種と同じである¹³⁾。

■ 国内発生に関するリスクおよび対応

現状では北キブ州およびイトゥリ州に発生が限られていること、これらの地域が紛争地帯であり、日本人旅行者が同地域を訪問・滞在する機会は極めて少なく、またDRCからの日本への入国者は年間約500人（月平均約40人）である^{14, 15)}。そのため、日本でEVDに患者が輸入例として発生するリスクが特段高まっている状況ではないと考える。

厚生労働省は、WHOが国際的に懸念される公衆の保健上の緊急事態（PHEIC）を宣言したことを受け、2019年7月18日付けで全国の地方自治体に対し、渡航者に対する注意喚起の実施や管内でエボラ出血熱疑い患者が発生した際の対応や手続きの再確認をするよう周知した。検疫所においてはホームページやポスター掲示によってDRCおよびウガンダ共和国への渡航者、帰国者への注意喚起を行っている。

日本でEVDの輸入感染症患者が発生するリスクは低いと考えられるが、今回のPHEIC宣言を機に、地方自治体および第1種感染症指定医療機関においてはEVD（疑い例を含む）を含めた一類感染症発生時の対応や検査診断体制を確認する機会とすることが重要である。

*参考文献

- 1) WHO. Situation report on the Ebola outbreak in North Kivu. 01. 7 August, 2018
https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/273640/SITREP_EVD_DRC_20180807-eng.pdf?ua=1
- 2) 外務省. 海外安全ホームページ「コンゴ民主共和国」2019年4月9日
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphazardinfo_103.html#ad-image-0
- 3) WHO. Disease Outbreak News Ebola virus disease – Democratic Republic of the Congo 18 July, 2019
<https://www.who.int/csr/don/18-july-2019-ebola-drc/en/>
- 4) WHO. Situation report on the Ebola outbreak in North Kivu. 03. 22 August, 2018
https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/274258/SITREP_EVD_DRC_20180820-eng.pdf?ua=1
- 5) Kalenga et al. The Ongoing Ebola Epidemic in the Democratic Republic of Congo, 2018–2019. NEJM. 29 May, 2019
https://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMSr1904253?query=featured_ebola
- 6) Ministère de la Santé de la République Démocratique du Congo. EBOLA DRC — evolution of the response to the

Ebola outbreak in the provinces of North Kivu and Ituri,15 July,2019

<https://us13.campaign-archive.com/?u=89e5755d2cca4840b1af93176&id=74a1a272b6>

7) WHO. Ebola outbreak in the Democratic Republic of the Congo declared a Public Health Emergency of International Concern 17 July,2019

<https://www.who.int/news-room/detail/17-07-2019-ebola-outbreak-in-the-democratic-republic-of-the-congo-declared-a-public-health-emergency-of-international-concern>

8) WHO. EBOLA VIRUS DISEASE IN UGANDA Situation Report # 2 13 June 2019

<https://www.afro.who.int/sites/default/files/2019-06/Ebola%20Virus%20Disease%20Sitrep%202%2013th%20June%202019.pdf>

9) MINISTRY OF HEALTH REPUBLIC OF UGANDA,Kampala,05 July 2019

<https://health.go.ug/press-release>

10) MINISTRY OF HEALTH REPUBLIC OF UGANDA,Kampala,17 July 2019

<https://health.go.ug/press-release>

11) WHO. Situation report on the Ebola outbreak in North Kivu 50. 16 July,2019

https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/325883/SITREP_EVD_DRC_20190714-eng.pdf?ua=1

12) United Nations strengthens Ebola response in Democratic Republic of the Congo 23 May,2019

<https://www.who.int/news-room/detail/23-05-2019-united-nations-strengthens-ebola-response-in-democratic-republic-of-the-congo>

13) WHO. Fact sheets/Detail/Ebola virus disease 30 May 2019

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/ebola-virus-disease>

14) e-Stat. 出入国管理統計. 出入（帰）国者数 2017 年次.

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250011&tstat=000001012480&cycle=7&year=20170&month=0&tclass1=000001012481&result_back=1&cycle_facet=cycle

15) e-Stat. 出入国管理統計. 出入（帰）国者数. 月次（2018 年）

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250011&tstat=000001012480&cycle=1&tclass1=000001012481>